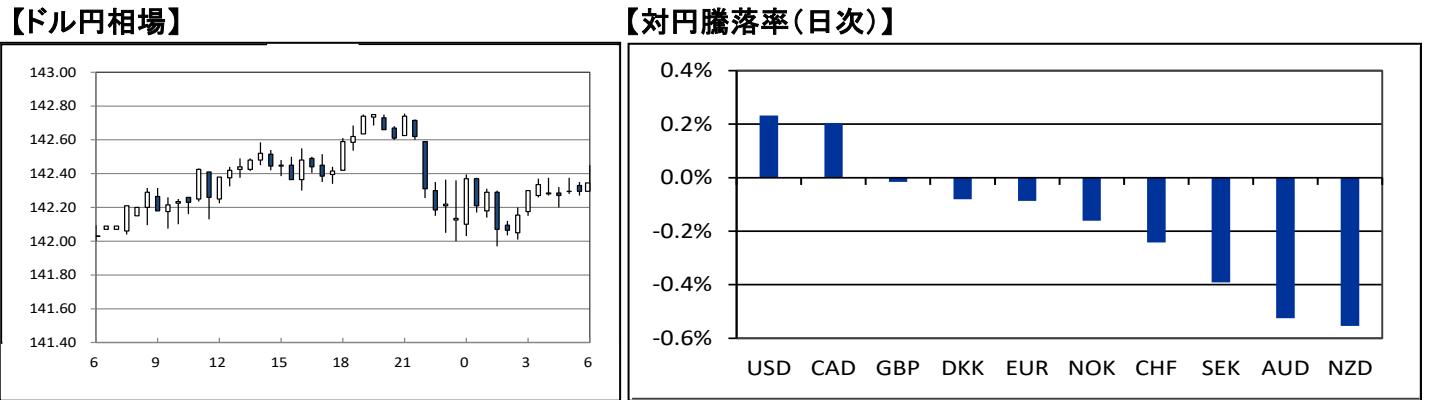


【昨日の市況概要】				公示仲値	-
	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	GBP/USD	AUD/USD
TKY 9:00AM	142.18	1.1408	162.17	1.3429	0.6427
SYD-NY High	142.75	1.1422	162.51	1.3442	0.6450
SYD-NY Low	141.97	1.1370	161.89	1.3380	0.6377
NY 5:00 PM	142.35	1.1385	162.13	1.3406	0.6384
	終値	(前日比)		終値	(前日比)
NY DOW	40,527.62	300.03	日本2年債	-	-
NASDAQ	17,461.32	95.19	日本10年債	-	-
S&P	5,560.83	32.08	米国2年債	3.6540%	▲0.0317%
日経平均	-	-	米国5年債	3.7678%	▲0.0397%
TOPIX	-	-	米国10年債	4.1707%	▲0.0347%
シカゴ日経先物	36,155.00	150.00	独10年債	2.4920%	▲0.0145%
ロンドンFT	8,463.46	46.12	英10年債	4.4810%	▲0.0240%
DAX	22,425.83	154.16	豪10年債	4.1480%	0.0340%
ハンセン指数	22,008.11	36.15	USDJPY 1M Vol	12.45%	0.04%
上海総合	3,286.65	▲ 1.76	USDJPY 3M Vol	11.85%	0.08%
NY金	3,333.60	▲ 14.10	USDJPY 6M Vol	11.39%	0.08%
WTI	60.42	▲ 1.63	USDJPY 1M 25RR	▲2.16%	Yen Call Over
CRB指数	294.23	▲ 3.65	EURJPY 3M Vol	10.16%	▲0.04%
ドルインデックス	99.24	0.23	EURJPY 6M Vol	10.24%	0.02%

東京	アジア時間のドル円は142.18レベルでオープン後、昨日までのドル売りは一服し、小幅に反発する展開。ただし東京市場が休場で特段材料に乏しい中、総じて小幅なレンジ内の推移となり、142.37レベルで海外時間へ。(香港時間14:30)
ロンドン	本日は日本の休日でUSDJPYは142.37レベルで始まり、142.30から142.75の間で取引された。ベッセント米財務長官がロンドン時間終盤に自動車関税の緩和の可能性を発表したことで、終盤にかけ小幅に上昇した。
ニューヨーク	NY市場のドル円は、午前中に発表された米3月JOLT求人件数と米4月コンファレンスボード消費者信頼感指数が予想を下回った事を受け、リスクオフムードが強まり、141.97まで値を下げる。午後は下げ渋り、142.30付近を挟んだ狭いレンジ推移が続き、142.35レベルでクロス。一方、ユーロドルは先述の低調な米経済指標の結果を受け、ドル売り地合いから1.1418まで上昇するも、その後ロシアとウクライナの紛争を巡る地政学リスクが上値を抑え、1.1370付近まで反落。午後は1.1380付近を中心とした推移が続き、1.1385レベルでクロス。

【昨日の指標等】						
Date	Time	Event		結果	予想	
4月29日	18:00	欧	消費者信頼感・確報	4月	-16.7	-
	23:00	米	コンファレンスボード消費者信頼感	4月	86.0	88.0
	23:00	米	JOLT求人	3月	7192K	7500K
【本日の予定】						
Date	Time	Event		予想	前回	
4月30日	10:30	中	製造業PMI	4月	49.7	50.5
	10:30	中	非製造業PMI	4月	50.6	50.8
	10:30	豪	CPI(前年比)	1Q	2.3%	2.4%
	15:00	独	小売売上高(前月比)	4月	-0.4%	0.3%
	15:45	仏	CPI(前年比)・速報	4月	0.7%	0.8%
	18:00	欧	GDP(前年比)	1Q A	1.1%	1.2%
	21:00	独	CPI(前年比)・速報	4月	2.0%	2.2%
	21:15	米	ADP雇用統計	4月	115k	155k
	21:30	米	GDP(年率/前期比)	1Q A	-0.2%	2.4%
	21:30	米	個人消費	1Q A	1.2%	4.0%



【予想レンジ】			
通貨ペア	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY
想定レンジ	141.50-143.50	1.1300-1.1500	161.50-163.50

【マーケット・インプレッション】

昨日はトランプ米大統領が自動車関税軽減の大統領令に署名したことが好感され、ドル円は小幅上昇。ただ関税政策を巡る不確実性や今週の米重要経済データの発表を前に、引き続きドル円は上値の重い展開を予想する。本日米国時間には米第1四半期GDPとPCE価格指数が公表予定。市場予想ではGDPはプラス予想も、アトランタ連銀予想モデルでは-2.7%のマイナス成長を見込んでおり、ドル円の下振れリスクが残る。またPCEは今月発表されたCPIの下落から、インフレ率の鈍化が示唆される可能性が高く、スタグフレーションへの懸念は後退するものの、FRBブットへの期待感が一段と強まることから、ドル円の押し下げ要因になると予想する。